

# 大阪市立科学館展示場リニューアルの全体像

吉 岡 克 己\*

## 概 要

大阪市立科学館（以下「当館」という。）では、令和3(2021)年度の職員による大阪市立科学館展示改装基本構想の策定以来、足掛け4か年度にわたった展示改装事業を完了し、2024(令和6)年7月31日に展示場リニューアル記念式典及び内覧会を執り行い、翌8月1日にリニューアルオープンした。

事業期間中には、2022(令和4)年に国際博物館会議(ICOM)総会で新たな博物館定義が採択され、2023(令和5)年には改正博物館法が施行されるなど博物館を取り巻く社会情勢も変化している。このようなか、今後、15～20年間の活動基盤を総合的に整備するため、事業範囲は展示内容だけでなく喫茶やミュージアムショップなどの便益施設及び誘導サインやチケットシステム、館内動線の見直しにおよび、結果、1989(平成元)年の開館以来、初めてとなる大規模な展示改装となった。

今後、当館では新しい展示場及び2022(令和4)年2月にリニューアルしたプラネタリウムを基盤として「科学好きが育つ科学館」へとさらに科学館事業を発展させていく所存である。

## 1. はじめに

当館では1989(平成元)年の開館以来3度のフロア単位を基本とする展示改装事業を実施してきた<sup>1)</sup>。その後、2019(平成31)年に展示場4階の一部を対象に第4次展示改装の第一期工事を実施し、以降の第4次展示改装は、2019(平成31)年4月に設置された地方独立行政法人大阪市博物館機構の運営の下で進められることになり本展示場改装事業に引き継がれたのである。

平成31(2019)年度から令和5(2023)年度までの5か年度の大阪市博物館機構第1期中期計画期間では、新型コロナウイルス感染防止対応に多くの時間を費やすことになったが、令和3(2021)年度にプラネタリウム全天周映像システム等の更新<sup>2)</sup>及び展示場1階の一部改修を実施し<sup>3)</sup>、並行して展示場全体の改修方針を大阪市立科学館展示改装基本構想にまとめることで事業を前に進めてきた。基本構想の策定をコンサルティング会社等に委ねなかったのは、当館の学芸員等に蓄積されているノウハウを最大限展示改装事業に活かすためであった。この基本構想が外部有識者による展示改装検討会の意見を踏まえて、2023(令和5)年3月に具体的な内容に踏み込んだ大阪市立科学館展示改装基本計画へと結実する<sup>4)</sup>。

この基本計画で定めたスローガン「他にない、みんな、科学を楽しむ、快適空間の構築をめざして」に向けて、令和5(2023)年度から設計施工を進めた。

## 2. 実施概要

### 2-1. 実施設計・施工事業者

基本計画の趣旨に則った展示場の再構築を目的に展示場等の設計・施工等を一括で業務委託する事業者を公募型プロポーザル方式にて選定した。設計・施工一括での業務委託方式としたのは、業務の中核となる科学館展示装置はほとんどが独自製作するものであり、十分な機能と安全性、耐久性、操作性を担保するためには設計段階からの試作・試行が不可欠であり、さらに個々の展示装置によって構成される展示場全体のデザインを統一的に設計していく必要があるためである。また、設計工程完了後に製造・施工工程に移るより、全体工期を短縮できる利点もある。これにより、休館期間を短縮し、2025(令和7)年の大阪・関西万博に新展示場で寄与できることを狙った。

大阪市立科学館展示場等改修業務委託事業者は2023(令和5)年6月に外部審査委員により株式会社丹青社関西支店が選定された。

### 2-2. 事業推進体制

\* 大阪市立科学館長  
kat.yoshioka@sci-museum.jp

事業推進にあたっては、当館職員及び委託事業者によるフロアごと(1階、2階、3階、4階)のワーキンググループを設置し、加えてリニューアルに合わせて更新するチケットシステム、企画展、企画フロア運営、VI・広報、休館中の収蔵資料整理を推進する館蔵品管理の各チームを設けた。各分科会として議事録が残る会議が2024(令和6)年4月までの10か月で113回に及び、さらに担当レベルでの製作現場やオンライン等での打ち合わせを重ねることで事業を進めた。

### 2-3. 工事休館期間

2023(令和5)年11月6日から2024(令和6)年7月31日までの約9か月間を現場施工期間として全館休館した。先行してリニューアルしたプラネタリウムは当初直近4か月間の休演での対応を計画したが、隣接の国立国際美術館による南北歩行者デッキ(陸橋)へのスロープ設置工事が同時期に実施されることになり、工事区域の立ち入り制限や騒音発生が予想されたため、プラネタリウムも約9か月間休演し、休演期間中、エスカレータの更新等の施設整備を実施しリニューアルオープンに備えることとした。

## 3. リニューアルの範囲

今回の当館の展示場改装事業の特徴はリニューアルの範囲が展示に限らず喫茶やミュージアムショップなどの便益施設及び誘導サインやチケットシステム、館内動線を総合的に見直したことにある。これにより、当館の使命である「科学を楽しむ文化の振興」に資する展示内容はもちろんのこと、ICOMで2022(令和4)年に採択された新たな博物館定義の肝である「利用しやすく(accessible)、包摂的(inclusive)であることや倫理的(ethically)かつ専門的(professionally)なコミュニケーション、コミュニティの参加による様々な体験の提供、さらに2023(令和5)年4月施行の博物館法に強調される地域の活力向上に向けた基盤整備にも応える体制ができた。本事業の主たる部分である大阪市立科学館展示場等改修業務委託の施工対象面積は表のとおりである。残念ながら、予算の都合上、3階東部分(図書コーナー、サイエンスステージ等)は今回の更新範囲から外すことになった。今後の課題である。

表 施工対象面積(業務委託仕様書より)

|           |                      |         |                        |
|-----------|----------------------|---------|------------------------|
| B1F アトリウム | 690 m <sup>2</sup>   | 1F(展示場) | 863(533)m <sup>2</sup> |
| 2F 展示場    | 487 m <sup>2</sup>   | 3F 展示場  | 490 m <sup>2</sup>     |
| 4F 展示場    | 1,469 m <sup>2</sup> | 合計      | 3,999 m <sup>2</sup>   |

## 4. 展示場構成

### 4-1. 4階「科学の探究」

「現象・原理を楽しむ」ことを目指して、自然現象を中心に自然に対する人間の取組みを意識して科学の

原理・法則等を扱うフロアである。

新たに設けた「大阪と科学」は特に大阪の地の科学とのつながりを紹介する特徴ある展示エリアである。

### 4-2. 3階「物質の探究」

「モノを(科学の視点で)楽しむ」ことを目指して、身近な物質を中心に原子、分子、化学結合を意識してその物性等を扱うフロアである。

特に化学反応を展示として展開した「スロー実験展示」に特徴がある。

### 4-3. 2階「みんなでたのしむサイエンス」

身近な現象を体験する中で「不思議をみつける」ことを目指したフロアである。見えない物や様々な現象のつながりを思い描くことをひとつの目標とし壁面グラフィックにも工夫している。

### 4-4. 1階「みんなのサイエンス・ラボ」

「対話と体験と企画展示の広場」を目指して、ワークショップやミニ講座、企画展示などフレキシブルな連携やコミュニケーションの舞台として新設している。

## 5. おわりに

予定した展示場等の整備については2024(令和6)年7月31日に記念式典を執り行い、翌日より一般公開することで区切りをつけることができた。しかし、ハードの整備完了からソフト整備がはじまる。より充実した科学館事業の展開とサービスの提供、そして持続的な活動基盤の確立に向けて引き続き運営方法の試行・整備を続けていきたい。そして、コミュニケーション環境の充実等の新たな機能を発揮して「科学好きが育つ」科学館へとさらに科学館事業の発展に向け邁進する所存である。

最後に、本事業はたくさんの方のご理解、ご協力の中で実施できたものである。ここに謹んで感謝申し上げます。

### 【注と参考】

- 1) 「大阪市立科学館の展示史」(2023年)大阪市立科学館。大阪市立科学館研究報告(33), pp35-53, 齋藤吉彦
- 2) 「2022年プラネタリウムリニューアルについて」(2022年)大阪市立科学館。大阪市立科学館研究報告(32), pp45-60, 渡部義弥ほか
- 3) 「展示場1階一部改修について」(2022年)大阪市立科学館。大阪市立科学館研究報告(32), pp61-64, 西野藍子、長谷川能三
- 4) 「大阪市立科学館第4次展示改装にかかる基本計画の策定について」(2023年)大阪市立科学館。大阪市立科学館研究報告(33), pp77-82, 石坂千春ほか